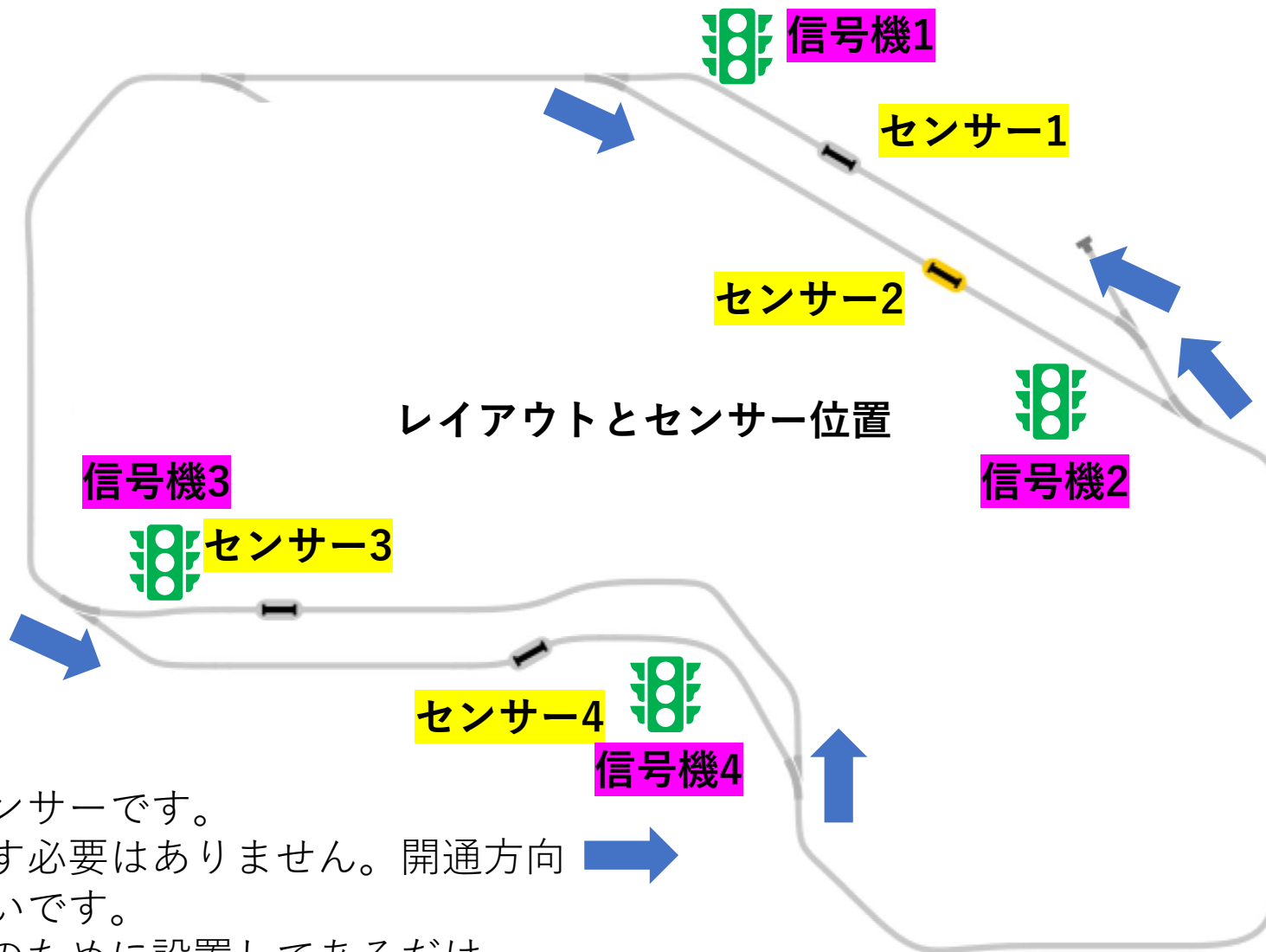



## CS3イベント設定内容

2022.08.15

### 【注意・免責】

Ver2.4のCS3です。あくまで個人が趣味で設定したものを例として公開しているため、動作保証、クレーム等は対象外です。自己責任でお願いします。マニアックです。CS3は設定で「イベント拡張モード」がオンになっている必要があります（専門家モード）。



すべてコンタクトセンサーです。  
ポイントは全く動かす必要はありません。開通方向   
信号機もなくてもいいです。  
※万が一の過走防止のために設置してあるだけ。

# 運行ダイヤ

駅が2つある単線のオーバルを、2編成の列車が対向方向に、交換しながら走ります。

66型の列車は、下の駅は通過して、1周して元の駅に戻ります。

BR02型の列車は、どちらの駅にも停車します。

66型の列車が、下の駅を通過する時、信号機が黄色だと、減速して通過して、再加速します。

66型は、発車時に汽笛を鳴らして、加速時と、減速した後の再加速時に発煙します。

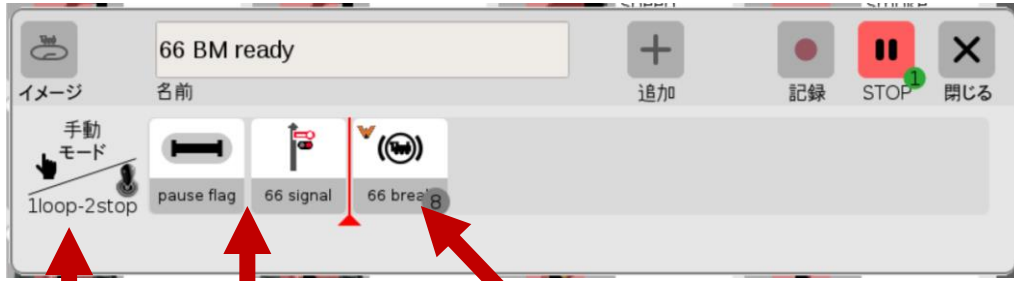
BR02型は、発車時に汽笛を鳴らして、走行中は発煙します。停車時は発煙を止めます。

## イベント総数24

詳細は、左上から、右下へ順番に並んでいます。

※名前で確認してください。

## 66型機関車のブレーキマクロを呼び出し

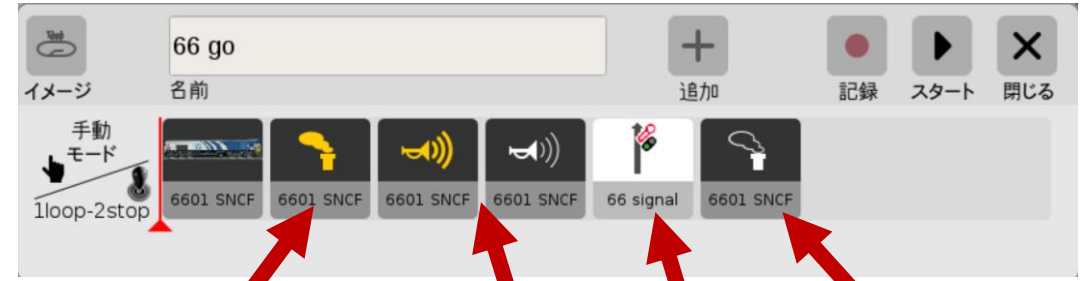


念のためポーズフラグとセマフォをリセット位置へ。

66型用のブレーキマクロ（ソフトウェアの仮想ブレーキモジュール）を呼び出し。

全イベント、スイッチがオンに時に動作。  
※他の運行パターンと切り替えるため。

## 66型機関車の発車時シーケンス



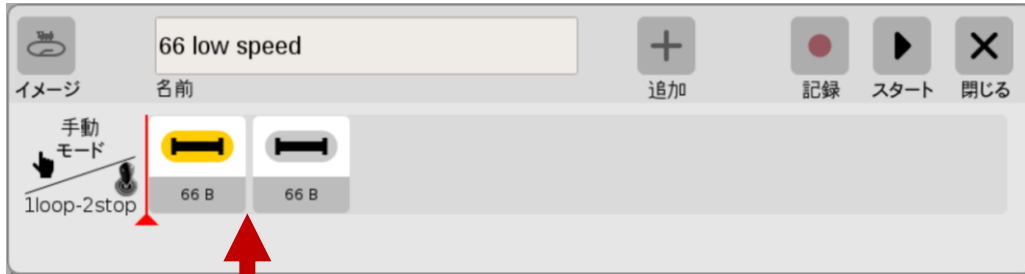
発煙して加速が終わる頃までディレイ。

2秒くらい警笛を鳴らす。

加速が終わった頃、発煙停止。

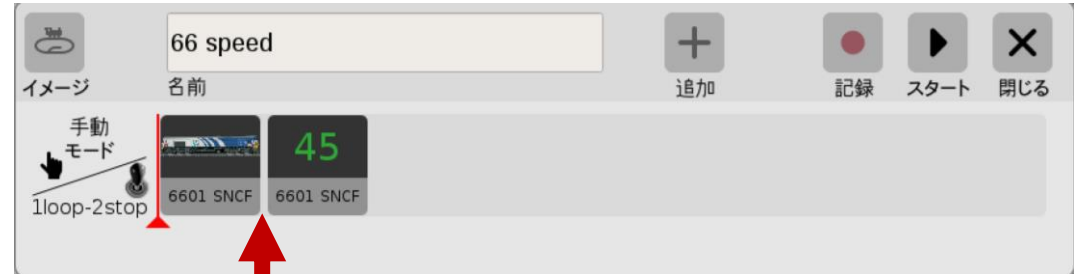
66型発車（ブレーキマクロを解除）

## 66型機関車の減速走行



ブレーキマクロの減速区間をオンにして、3秒ディレイして解除。（仮想的にブレーキゾーンに入ったと認識させる）  
※仮想的な停止ゾーンは踏ませないので停車はしない。

## 66型機関車の通常速度走行



45キロで走行。  
※速度を変えたい時は、ここだけ直せばいいよ。

## 66型機関車のブレーキマクロ有効化（1番線発車時）



「66型機関車のブレーキマクロを呼び出し」を実行。

センサー1から離れたら実行

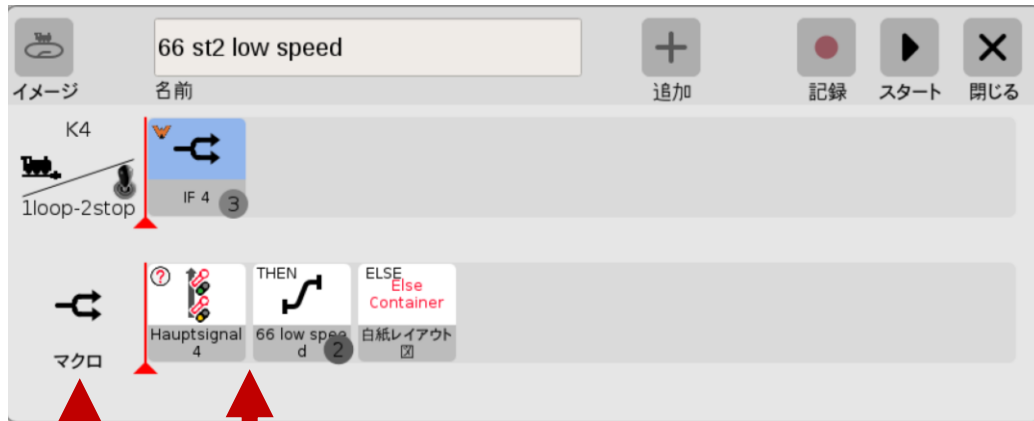
## 66型機関車が1番線に到着



「66型機関車を停車させる」を実行。

センサー1を踏んだら実行

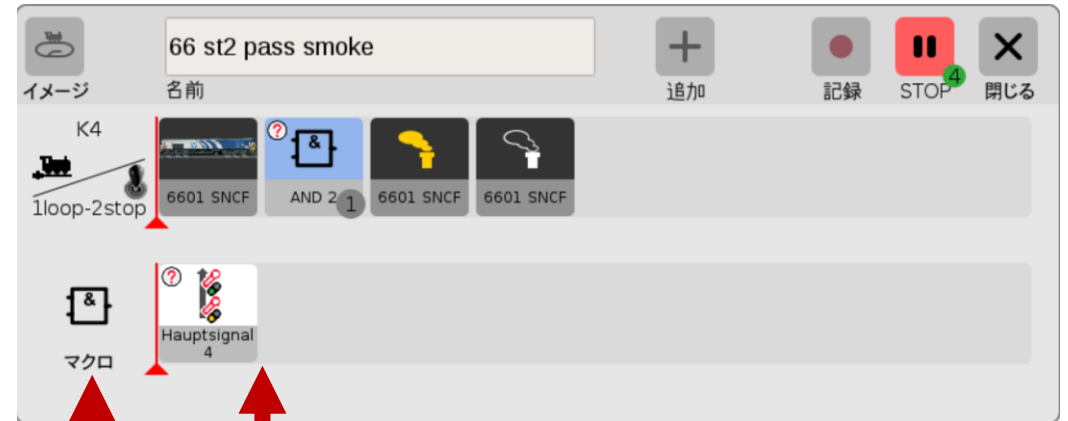
## 66型機関車が下の駅を減速して通過（黄色信号の時）



[条件分岐]  
4番線の信号機4が「黄色」を現示している場合のみ、  
「66型機関車の減速走行」を実行。

センサー4を踏んだら実行

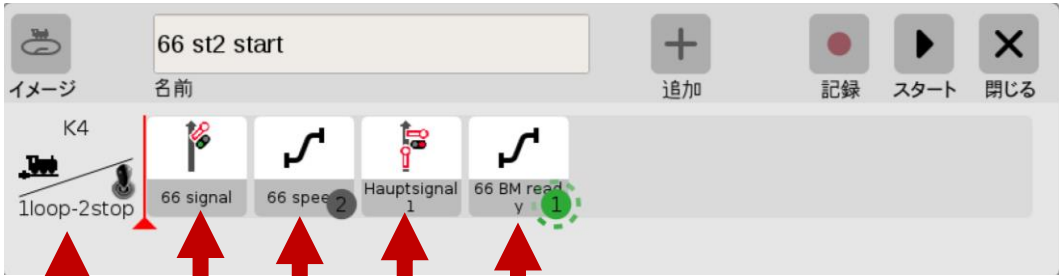
## 66型機関車が減速して通過した場合の、再加速時の発煙演出



[条件分岐]  
4番線の信号機4が「黄色」を現示している場合のみ、  
発煙して、数秒間ディレイして、発煙停止。

センサー4を踏んだら実行

## 66型機関車のブレーキマクロ有効化（4番線発車時）



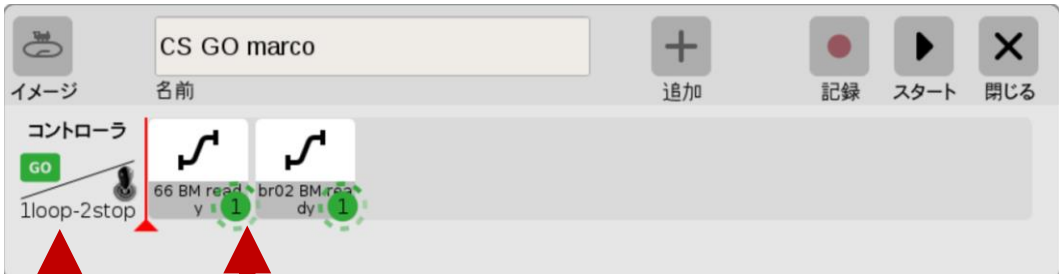
念のためセマ  
フォをリセット。

「66型機関車のブレーキマクロを呼び出し」を実行。  
信号機1を赤にする（万が一の次駅の過走防止のため）。

念のため通常速度まで強制加速させる。  
※事故後の再起動時など、低速でブレーキ区間に進入してしまった場合の対策。

センサー4から離れたら実行

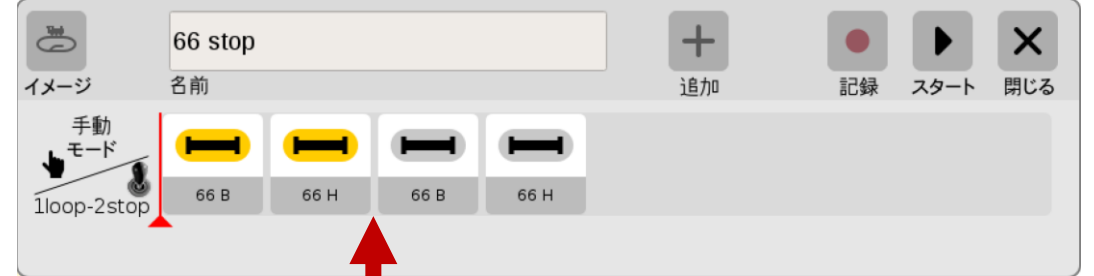
## 緊急停止／事故／オーバーロード等、不測の事態後の自動復帰



「66型機関車のブレーキマクロを呼び出し」と「BR02型機関車のブレーキマクロを呼び出し」を実行。

CS3がSTOPボタンを解除してGO状態になる度に実行。

## 66型機関車を停車させる



ブレーキマクロのブレーキ区間をオンにして、制動距離分をディレイさせる。  
（仮想的にブレーキ区間を作り出す。この値で制動距離を調整できる）

その後、ブレーキマクロの停止区間をオンにする。（仮想的に停止区間を作り出す）

認識させたら、双方ともに仮想区間を解除（仮想ブレーキモジュールを消す）。

## BR02型機関車のブレーキマクロを呼び出し



念のためポーズフラグとセ  
マフォをリセット位置へ。

NR02型用のブレーキマクロ  
（ソフトウェアの仮想ブレーキモジュール）  
を呼び出し。

## BR02型機関車の発車時シーケンス



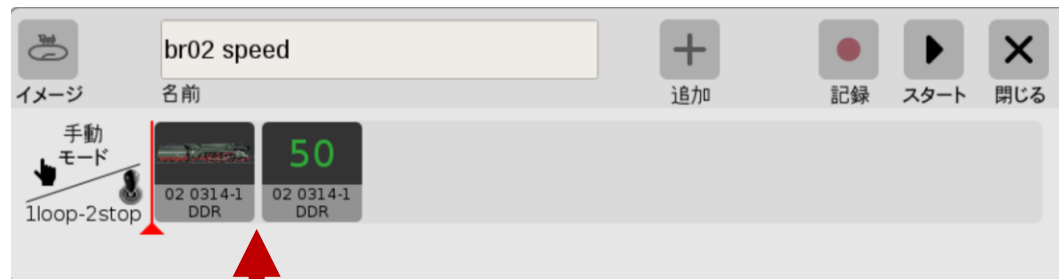
発煙開始。

2秒くらい警笛を鳴らす。

BR02型発車  
(ブレーキマクロを解除)

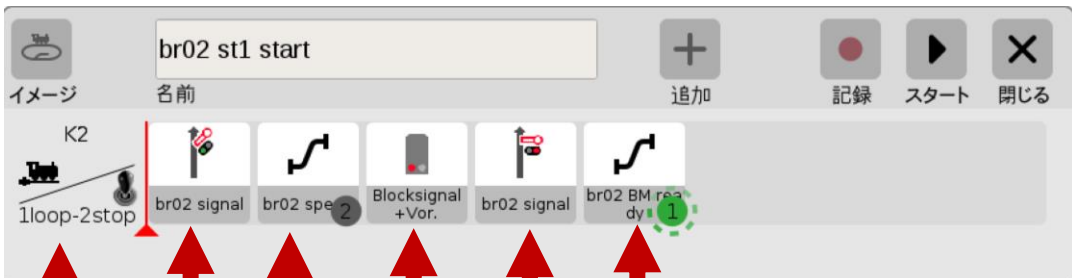
警笛停止。

## BR02型機関車の通常速度走行



50キロで走行。  
※速度を変えたい時は、ここだけ直せばいいよ。

## 66型機関車のブレーキマクロ有効化（2番線発車時）



念のためセマ  
フォをリセット。

「BR02型機関車のブレーキマクロを呼び出し」を実行。

セマフォを停止条件にセット。

信号機3を赤にする（万が一の次駅の過走防止のため）。

念のため通常速度まで強制加速させる。  
※事故後の再起動時など、低速でブレーキ区間に進入してしまった場合の対策。

センサー2から離れたら実行

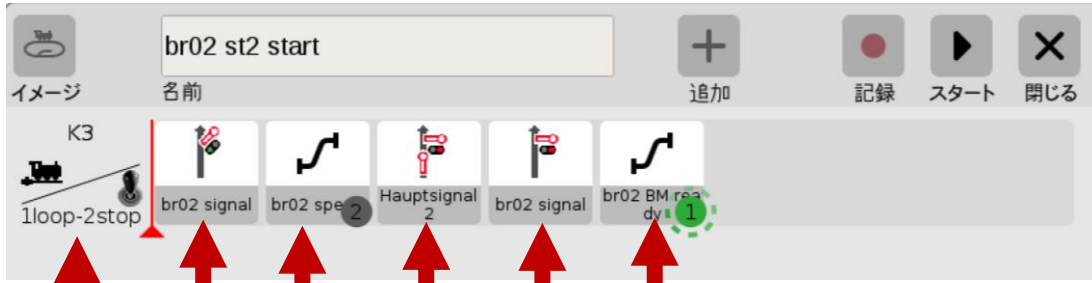
## BR02型機関車が2番線に到着



「BR02型機関車を停車させる」を実行。

センサー2を踏んだら実行

## BR02型機関車のブレーキマクロ有効化（3番線発車時）



念のためセマ  
フォをリセット。

「BR02型機関車のブレーキマクロを呼び出し」を実行。

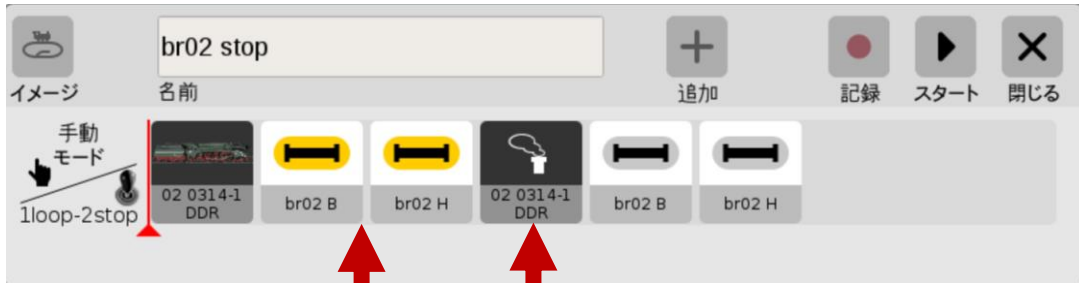
セマフォを停止条件にセット。

信号機2を赤にする（万が一の次駅の過走防止のため）。

念のため通常速度まで強制加速させる。  
※事故後の再起動時など、低速でブレーキ区間に進入してしまった場合の対策。

センサー3から離れたら実行

## BR02型機関車を停車させる



発煙装置をオフにする。  
※連続発煙時間5分制限の対策。

ブレーキマクロのブレーキ区間をオンにして、制動距離分をディレイさせる。  
（仮想的にブレーキ区間を作り出す。ここの値で制動距離を調整できる）

その後、ブレーキマクロの停止区間をオンにする。（仮想的に停止区間を作り出す）

認識させたら、双方ともに仮想区間を解除（仮想ブレーキモジュールを消す）。

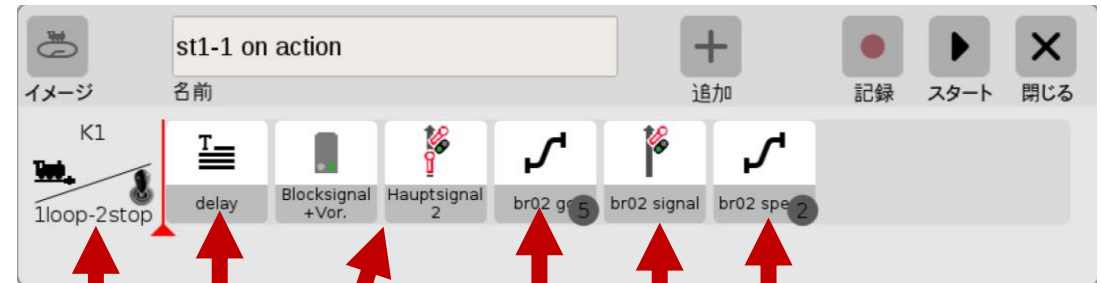
## BR02型機関車が3番線に到着



「BR02型機関車を停車させる」を実行。

センサー3を踏んだら実行

## 1番線到着時の各種アクション



停車時間分  
のディレイ。

BR02（対向列車）の進行  
信号を青にする。  
※駅発車時に設定した過  
走防止を解除。

念のため通常速度まで強制加速させる。  
※事故後の再起動時など、低速でブレー  
キ区間に進入してしまった場合の対策。

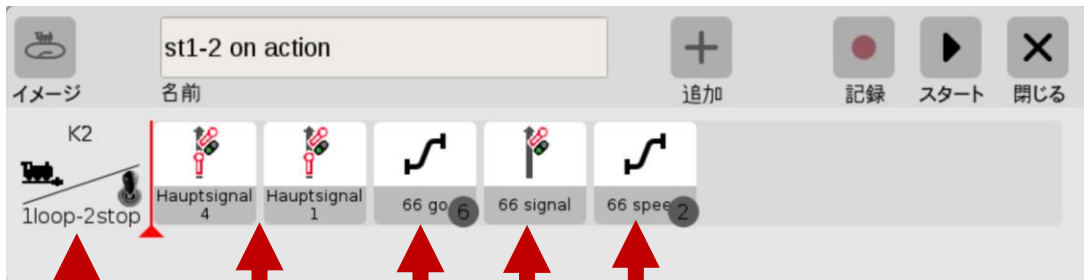
念のため再度発車指示。

「BR02型機関車の発車時シーケンス」を実行。

センサー1を踏んだら実行



## 2番線到着時の各種アクション



66型（対向列車）の進行信号を青にする。  
※駅発車時に設定した過走防止を解除。

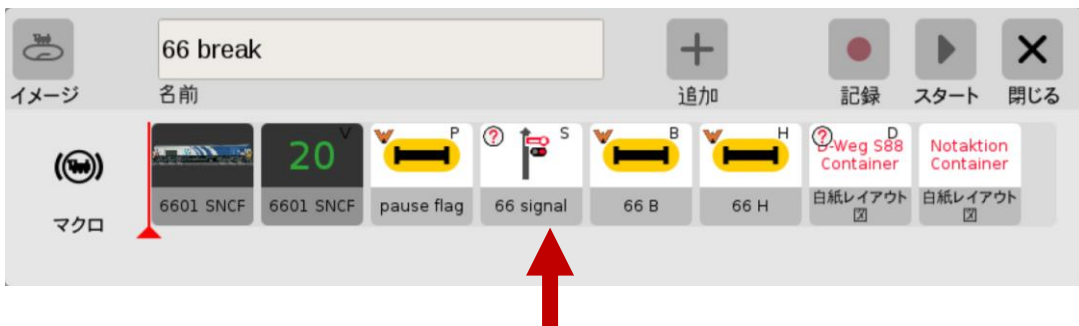
念のため再度発車指示。

念のため通常速度まで強制加速させる。  
※事故後の再起動時など、低速でブレーキ区間に進入してしまった場合の対策。

「66型機関車の発車時シーケンス」を実行。

センサー2を踏んだら実行

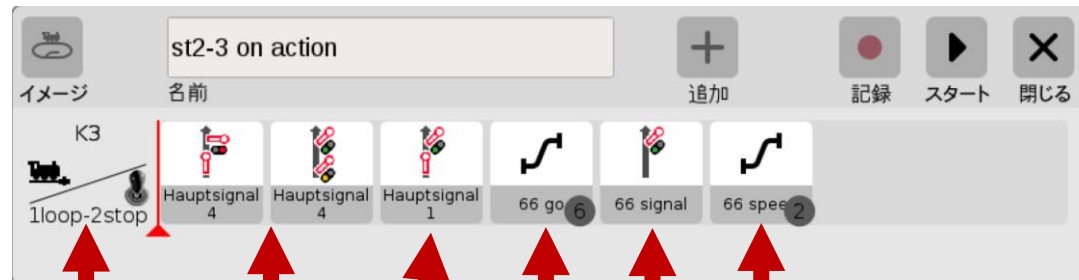
## 66型機関車のブレーキマクロ



66型機関車用のソフトウェアによる仮想ブレーキモジュールを設定。

ブレーキ区間の減速速度：20キロ  
ポーズフラグ：制御コンタクト「pause flag」  
セマフォ：仮想信号機「66 signal」  
ブレーキ区間：制御コンタクト「66 B」  
停止区間：制御コンタクト「66 H」  
緊急停止区間：設定なし  
失敗時の対策：設定なし

## 3番線到着時の各種アクション



信号機4を黄色にする。  
※演出ディレイ付き

66型（対向列車）の進行信号を青にする。  
※駅発車時に設定した過走防止を解除。

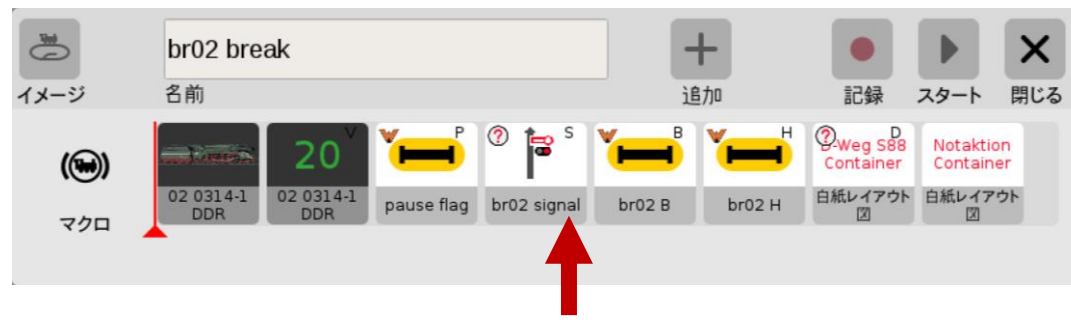
念のため再度発車指示。

念のため通常速度まで強制加速させる。  
※事故後の再起動時など、低速でブレーキ区間に進入してしまった場合の対策。

「66型機関車の発車時シーケンス」を実行。

センサー3を踏んだら実行

## BR02型機関車のブレーキマクロ



BR02型機関車用のソフトウェアによる仮想ブレーキモジュールを設定。

ブレーキ区間の減速速度：20キロ  
ポーズフラグ：制御コンタクト「pause flag」  
セマフォ：仮想信号機「br02 signal」  
ブレーキ区間：制御コンタクト「br02 B」  
停止区間：制御コンタクト「br02 H」  
緊急停止区間：設定なし  
失敗時の対策：設定なし